

科目名	日本語教授法 I	
担当者	新内 康子 / SHIN' UCHI, Koko	
科目情報	人間文化<日本語日本文学> / 選択 / 前期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	コースデザインとは何か、日本語教授法に関する理論などを講義し、その後日本語初級レベル（日本語能力試験4〜3級相当）の指導法を実際に体験する。
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. コースデザインの概要が理解できるようになる。 2. 初級文型とは何かがわかり、文の特徴に合わせた文型練習が既習の日本語だけで手際よく行えるようになる。 3. 初級学習者向けにフォリナートークができるようになる。 4. 初級指導のために適切な教材教具が使用できるようになる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) コースデザインの概要（講義） (2) 同上（講義） (3) 同上（講義） (4) 導入のための教室活動（講義） (5) 文法練習の種類と具体的なやり方ーオーディオリンガル法・TPR・CLLー（講義） (6) 初級文型の導入と文型練習の模擬授業（演習） (7) 同上（演習） (8) 同上（演習） (9) 新出語彙の教え方、本文（会話文）の教え方（講義） (10) コミュニカティブアプローチに基づくコミュニケーション活動の教材の作り方および指導のやり方（講義） (11) 新出語彙・文型練習・本文・コミュニケーション活動の模擬授業（演習） (12) 同上（演習） (13) 同上（演習） (14) 同上（演習） (15) 総まとめ 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材と配付プリント」の該当箇所を事前に読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演習・期末試験に備え、学習した内容を確実に理解しておくこと。
使用教材・参考文献	<p>【教】『みんなの日本語初級 I 本冊』『同左 翻訳・文法解説』『同左 教え方の手引き』スリーエーネットワーク 1998年</p> <p>【参】『日本語教授法ワークショップ』凡人社 1996年</p> <p>【参】田中望『日本語教育の方法-コースデザインの実際-』大修館 1988年</p>	
成績評価方法と基準	<p><方法> 発言等の積極性（10点）、ニーズ調査表作成（20点）、宿題（10点）、演習（30点）前期末試験（30点）</p> <p><基準> 上記評価方法により合計が60点に達した者を合格とする。ただし、各人2回の演習のうち1回でも無断欠席した者は、合格としない。</p>	
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 4回以上欠席した場合は不合格とする。なお、2回の遅刻で1回分の欠席とする。 2. 演習の際には、個別指導を事前に授業時間外に行う。 	